

化石研 ニュース

136 2019/10/6

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

化石研究会 第152回例会 (兵庫県立人と自然の博物館) プログラム

来る11月2～3日に兵庫県で開催する第152回例会の正式プログラムをお知らせいたします。特に宿泊の斡旋はありませんので、必要な方は各自でご予約ください。

なお、本例会での懇親会の開催予定はありません。

- 会期：2019（令和1）年11月2日（土）～3日（日・祝）
- 会場：兵庫県三田市
(11/2・兵庫県立人と自然の博物館)、兵庫県丹波市・丹波篠山市（11/3）
- 日程概要：

11月2日（土）13:00～17:00

シンポジウム「パレオアートと博物館」

(講演内容とプログラムは、2ページをご覧ください)

会場：兵庫県立人と自然の博物館（三田市弥生が丘6丁目）

※ 神戸電鉄「フラワータウン」から徒歩5分

以下のURLもご確認ください。

<https://www.hitohaku.jp/infomation/access.html>

本館4階 大セミナー室

受付：4階入口（参加費¥500[含入館料]）

※ 化石研会員には名札をつけていただきます。

11月3日（日）9:00～15:00

篠山層群の巡検

(詳細については3ページをご覧ください)

シンポジウム

「パレオアートと博物館」

>>> 開催趣旨 <<<

アーティストと研究者の緊密な共同作業により作成された復元画、復元彫塑像、復元骨格を総称してパレオアートというが、パレオアートは古生物や古環境の研究結果を一般市民に伝える強力なツールである。一方、博物館は重要な化石産出層の発掘調査を推進する担い手であり、その調査研究結果を市民に伝えるうえでパレオアーティストとの共同作業は欠かせない。本シンポジウムでは解剖学的な知見に忠実に作品を作成しているパレオアーティスト、デジタル技術を積極的に活用しているパレオアーティスト、絶滅動物の体色復元に携わった生物学者、復元景観図で重要な古植物を研究している古生物学者から話題を提供していただき、パレオアートの進むべき方向、さらには博物館における重要性について考える。

>>> 講演プログラム <<<

13:00～13:05 会長あいさつ

13:05～13:20 趣旨説明

(三枝 春生：兵庫県立人と自然の博物館／兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)

13:20～13:55 講演1「博物館展示における復元画の役割」

(小田 隆：STUDIO D'ARTE CORVO)

古生物とは絶滅してしまった生物の総称で、現在、その生きた姿を見ることはできない。まれに「生きた化石」として存在するものもあるが、多くの場合、全く変わらずその姿のままということはない。通常、古生物は化石として博物館に展示される。それは断片的であったり、骨だけであったり、生きた姿を想像することは、専門家であっても容易ではない。それらの助けとなる復元画のあり方を紹介したい。

13:55～14:30 講演2「古生物復元模型製作における様々な製作手法・表現・見せ方」

(徳川 広和：株式会社Actow)

一口に古生物復元模型製作と言っても、対象となる題材それぞれの化石の保存状態や資料及び研究の量、作品の縮尺、使用目的等により製作作業には様々な違いが生じる。本講演ではザイサンアミノドン（兵庫県立人と自然の博物館所蔵）、ダーウィニウス（京都大学総合博物館所蔵）の復元模型等の複数の事例を取り上げ、各模型製作の手法や表現、作品の見せ方を対比しながら紹介する。

14:30～15:05 講演3「化石から体色は復元できるのか？現生と化石爬虫類の色素を比較する」

(栗山 武夫：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所／兵庫県森林動物研究センター)

2010年代から鳥類の祖先である獣脚類から色素の一種であるメラニン顆粒が同定され、それを皮切りに保存状態の良い化石種の体色復元が進んでいる。講演では演者が取り組んだ魚竜類とウミガメ類の化石の体色復元、現生爬虫類の色素細胞の解析を中心に紹介し、現在発表されている化石種の体色復元が本当に正しいのか検証してみたい。

<15:05～15:20 休憩>

15:20~15:55 講演4「古植物学の目線で古脊椎動物の復元画を見る意味」

(山田 敏弘：大阪市立大学理学部附属植物園)

脊椎動物の復元画の背景には、しばしば主人公となる動物の生息場が描かれ、その一部として植物が登場する。しかし、背景の植物にまで細かな配慮がなされた復元画は意外と多くなく、主人公のキャラ設定がある意味“台無し”になっている。本講演では、復元される主人公を生態系というコンテキストで見た場合の植物の重要性や、実際に復元画を作成する過程で注意すべき点について、実例を交えながら紹介したい。

15:55~16:30 講演5「博物館におけるデジタル3D技術を活用したパレオアートの展開」

(新村龍也：足寄動物化石博物館)

3Dモデルとして古生物が復元される例が近年増えてきている。古生物の3Dモデルであれば、様々な角度からプロポーシオンを確認でき、骨格の3Dモデルを組み込むことで、より正確な復元を目指すことができる。加えて、3Dモデルであれば、ポーズ等を変えることで、新しい復元画を無限に制作することができ、3Dプリンタを使うことで、体験学習用のキットなどを制作することも可能である。本講演では、デジタル3D技術を活用した足寄動物化石博物館の活動を紹介する。

16:30~17:00 総合討論

篠山層群の巡検

日時：11月3日（日・祝）9:00~15:00（予定）

行程：

- 9:00 兵庫県立人と自然の博物館駐車場に集合
- 10:00~11:45 丹波竜化石工房ちーたんの館
(タンバティタニスの復元骨格など)
- 11:30~12:20 上滝第一発掘現場
(タンバティタニスと卵化石産地)
- 12:20~13:00 昼食
- 13:15~13:45 丹波篠山市宮田
(ササヤマミロスなどの産地)
- 15:00 兵庫県立人と自然の博物館駐車場で解散



博物館に集合してから解散までは車での移動となりますが、ご自身の車で参加されるか、レンタカーを借りて参加していただくかのどちらかになります。レンタカーの場合は同乗者を募って費用を割り勘にするのが良いのですが、当日すぐに同乗者が見つかるとは限りません。そこで、レンタカーを使用しての参加をご希望の方は10月27日までに私 (saegusa@hitohaku.jp) までご連絡ください。同乗者の組み合わせを提案いたします。

なお、博物館周辺では徒歩5~6分以内に2か所レンタカー屋があります。車のレンタカー代、高速代、ガソリン代を割り勘した場合、同乗人数や経路の若干の変更などを考えに入れると、おおよそ一人当たり1500~2000円ほどになります。 (兵庫県立人と自然の博物館 三枝春生)

運営委員会 (役員等関係者はお出席ください)

- ・日 時：11月2日(土) 11:00~12:30
- ・会 場：兵庫県立人と自然の博物館 本館4階 大セミナー室

井尻正二記念講演会のおしらせ (続報)

先日の化石研ニュース号外でお知らせした「井尻正二記念講演会」の詳細につきまして、連絡が来ましたので、お知らせいたします。

>>ご案内と申し込み方法<<

井尻正二氏は亡くなられてから今年で20年になります。これを記念して、氏の科学分野における指導、科学論、理論問題、科学運動の広い分野の教えを継承すべく、下記の要領で講演会と交流会を企画しました。皆様の参加をお待ちしています。なお、参加くださる方は事前申し込みをお願い申し上げます。

日 時：11月24日(日) 13:00~18:00

会 場：「嘉ノ雅 茗溪会館」

(東京都文京区大塚1丁目5-23 丸の内線茗荷谷駅下車 お茶の水女子大前)

プログラム：【I部】講演会

- 13:05-13:25 後藤仁敏：井尻正二氏の生涯と業績
- 13:25-13:55 吉田健一：秩父での普及活動と井尻氏の感化
- 13:55-14:25 矢野孝雄：「太平洋問題」—「起」「承」から「転」をめざして—
- 14:35-14:55 犬塚則久：「拈華微笑」—師弟と学の継承—
- 14:55-15:25 近藤洋一：井尻さんと野尻湖発掘と獲得性遺伝
- 15:25-15:45 小林忠夫：「団体研究(法)」と「否定的精神」について
- 15:45-16:15 総合討論

【II部】交流会

16:30-18:30 立食による、自由討論会

会 費：講演会(一般1,000円、学生500円)

交流会(一般7,000円、学生2,000円)

※ 会費の徴収は当日会場入り口で受け付けます。

参加申込：下記宛に、次の項目についてお知らせください。

①講演会と交流会のそれぞれの参加の有無、②学生か一般の別、③氏名、④連絡先。

申込先：野尻湖ナウマンゾウ博物館 近藤洋一宛、

メールアドレス：nojiriko@avis.ne.jp

電話：026-258-2090 住所：〒389-1303 長野県上水内郡信濃町大字野尻 287-5

申込期限：2019年10月30日

>>> 講演要旨 <<<

講演1 後藤仁敏：井尻正二氏の生涯と業績

恩師・井尻正二氏の生涯をたどり、井尻氏の古生物学者、著述家、社会運動家としての業績を紹介したい。

講演2 吉田健一：秩父での普及活動と井尻氏の感化

井尻さんの感化があればこそ、地方でのほ乳類化石研究と地質学の普及活動を行ってこられた。励みになった言葉や普及活動の実際を紹介します。

講演3 矢野孝雄：「太平洋問題」－「起」「承」から「転」をめざして－

1958年に井尻会員は、地団研10年のテーマとして、「太平洋の構造発達史を、日本列島を中心にして団体研究しよう！」と提起した。地団研が総力をあげた1970年頃までのとりくみと、その後の多くの個人研究によって、今日では『太平洋問題』の全体像を垣間見ることができるようになった。その到達点と展望を話題提供させていただく。

講演4 犬塚則久：「拈華微笑」－師弟と学の継承－

入門：自分の専門、研究条件（就職、文献、研究費）の整備、浜町ナウマンゾウ発掘

教え：研究（用語、文章、テーマ）の指導、否定的精神、重要文献、研究以外の生活態度（挨拶の仕方、普及活動）

理解：著作『人体の矛盾』から、学の体系、学説

継承：弟子の育成「骨ゼミ」、 「半眼微笑」の色紙、遺言状『古生物学的進化論』

講演5 近藤洋一：井尻さんと野尻湖発掘と獲得性遺伝

1961年まず掘ってみようという井尻さんの提案ではじまった野尻湖発掘は、2020年で第23次発掘を迎える。60年近く発掘が続けられてきた野尻湖発掘には井尻さんの組織づくりのエッセンスが詰まっている。地元主義の成果としてつくられた野尻湖ナウマンゾウ博物館の活動を通して、今に生きる井尻さんの組織づくりについて紹介する。また井尻さんは獲得性遺伝の重要性を指摘されてきたが、ほとんどの生物学者はこれを否定してきた。ところが近年、エピジェネティクスという研究がすすみ、獲得性遺伝が受け入れられてきている。

このような事例から、私たちは井尻さんから何を学ぶのかを考えたい。

講演6 小林忠夫：「団体研究（法）」と「否定的精神」について

井尻さんが1936年に創案され1947年に刊行された「古生物学論」（井尻正二選集1原点）から上記の2つの話題を選びました。実践で取り入れるために読み直す頻度が高く、なおかつ不明が残る部分だったからです。この機会にまた読み直して、あらたな問題提起ができればと考えたのですが……。ちなみに1936年はわたしが生まれた年で、井尻さんは23歳、大学を卒業した年だったようです。


（井尻正二記念講演会世話人【小寺春人、澤村寛、犬塚則久、近藤洋一、斉藤尚人】）

化石研の Website で 会誌が読めるようになりました

化石研究会の website (<http://kasekiken.jp/>) には、化石研の紹介、化石研ニュース、例会・総会の報告などを掲載してあります。ご覧になっていただいているでしょうか。

今年になって無料のサーバーが閉鎖されたために、新しいレンタルサーバーを契約して運用し、内容の充実を図っています。

その中で、会誌の総目次から各論文の PDF をダウンロードできるようにしました。

1. URL に <http://kasekiken.jp/> を入力するか、**化石研究会** で検索して、トップページが開いたら、**MENU** の「**会誌・出版物**」をクリックするか、**「化石研究会会誌(新刊)」**をクリックして、「化石研究会会誌」のページを開きます。
2. 最新号の目次の下にある「**会誌バックナンバー**」の「**今までの「化石研究会会誌」各号の目次一覧**(←ここをクリック)」をクリックすると、バックナンバーの目次を見ることができます。
3. 目次の、区別の欄に入っている  のマークをクリックすると、その論文の PDF が開きます。

現在のところ、第 37 巻から第 50 巻の PDF を公開していますが、残りの巻も順次、公開できるようにしていきたいと考えています。

(会誌編集委員会 小幡喜一)

>>> 事務局だより <<<

- 多くの会員の皆さまに、会費を納入いただきました。どうもありがとうございます。
未入金の会員の皆さまも納入をよろしく願いいたします。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ホームページ <http://kasekiken.jp/>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名 称 化石研究会 (カセキケンキュウカイ)

年 会 費 一般 4000 円 (学生 2000 円)

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のホームページではカラーで見ることができます。

現在、印刷版のニュースが郵送されている方の中で、郵送しなくても良い方は是非ご連絡ください。